

2020年3月期 第2四半期決算説明会

- 1.第2四半期決算の概要(連結)
- 2.通期の業績見通し
- 3.当社の経営戦略

2019年11月8日

日本光電工業株式会社

証券コード：6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

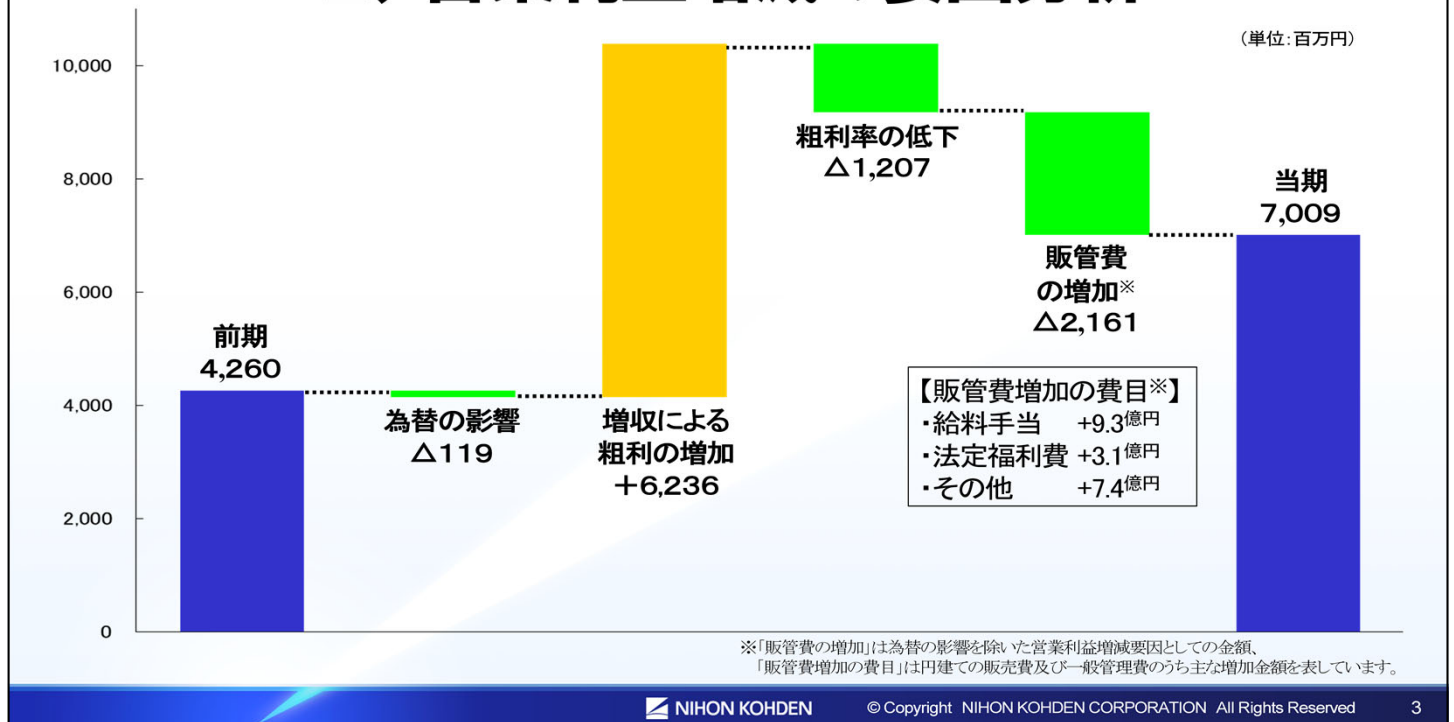
第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計(2018/9)	当第2四半期 累計(2019/9)			(単位:百万円、単位未満切捨て)
		期初予想	実績	対前年同期 増減率(%)	
売上高	79,050	84,500	89,735	13.5	
国内売上高	57,857	-	67,445	16.6	
海外売上高	21,192	-	22,289	5.2	← 為替影響除く: +7%
売上総利益 (売上総利益率)	38,649 48.9%	-	43,354 48.3%	12.2	← 自社品 売上比率 2018/9 2019/9 64.1% 64.3%
営業利益 (営業利益率)	4,260 5.4%	4,500 5.3%	7,009 7.8%	64.5	← 2018/9 2019/9 為替差益 為替差損 701百万円 855百万円
経常利益	5,270	4,500	6,334	20.2	← 【特別損失】 2019/9 和解金 440百万円 建物解体費用 133百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,916	3,000	3,943	0.7	
平均レート	(2018/9)	(2019/9)			
1米ドル	109.7円	109.2円			
1ユーロ	129.2円	121.9円			

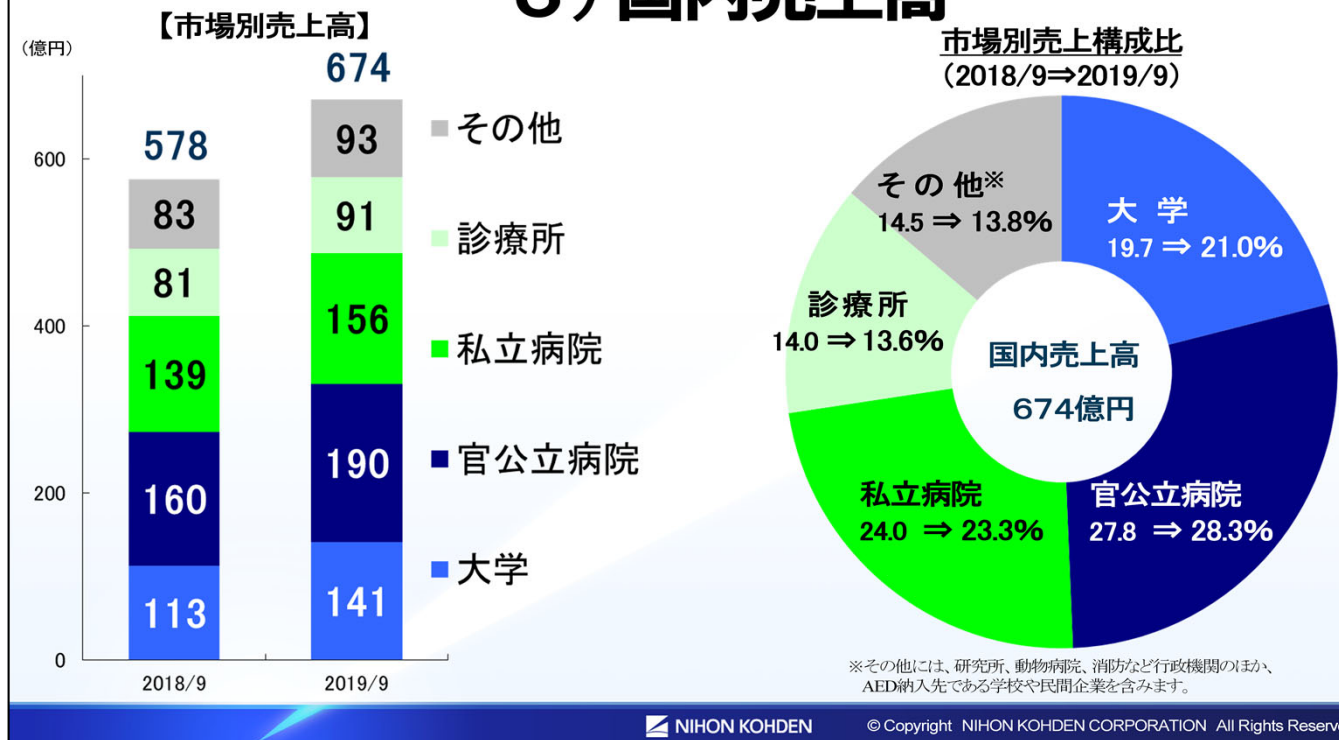
- 売上高は、13.5%増の897億円となりました。国内売上高は16.6%増の674億円、海外売上高は5.2%増の222億円、現地通貨ベースでは7%の増加となりました。
- 期初予想に対しては、海外が下回りましたが、国内が大口商談や駆け込み需要で好調だったことから、全体で52億円上回りました。
- 粗利率は、0.6%ポイント減の48.3%となりました。
- 営業利益は、増収効果に加え、一部費用が下期に期ずれしたこともあり、64.5%増の70億円となりました。
- 経常利益は為替差損の計上により20.2%増の63億円、純利益は特別損失の計上により0.7%増の39億円となりました。

2) 営業利益増減の要因分析



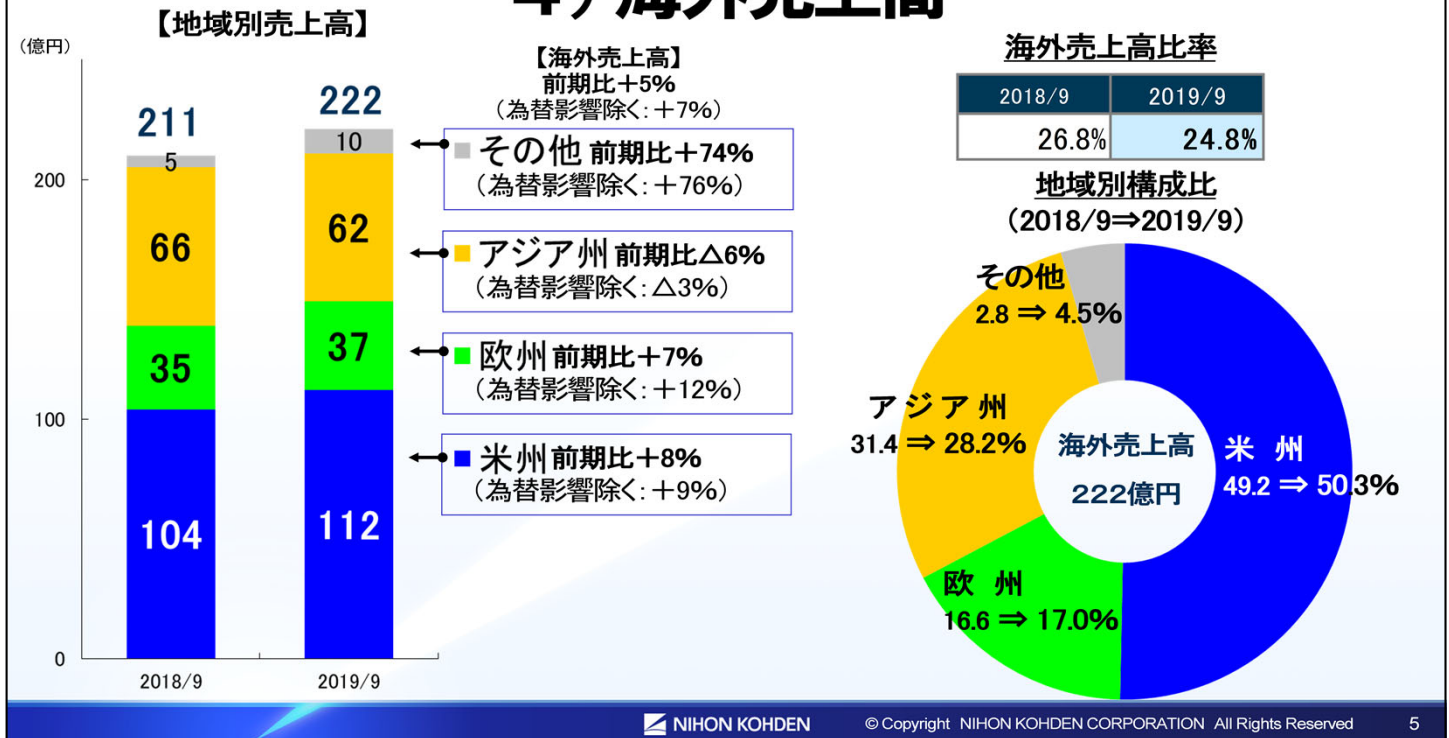
- 営業利益が、前期の42億円から70億円に増加した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、1億円のマイナス要因となりました。
- 増収による粗利の増加は、62億円となりました。
- 粗利率の改善につきましては、全社的に改善に取り組んだものの、大口商談や駆け込み需要に伴う売価ダウンにより、12億円のマイナス要因となりました。
- 販管費につきましては、人員の増強などにより21億円のマイナス要因となりました。

3) 国内売上高



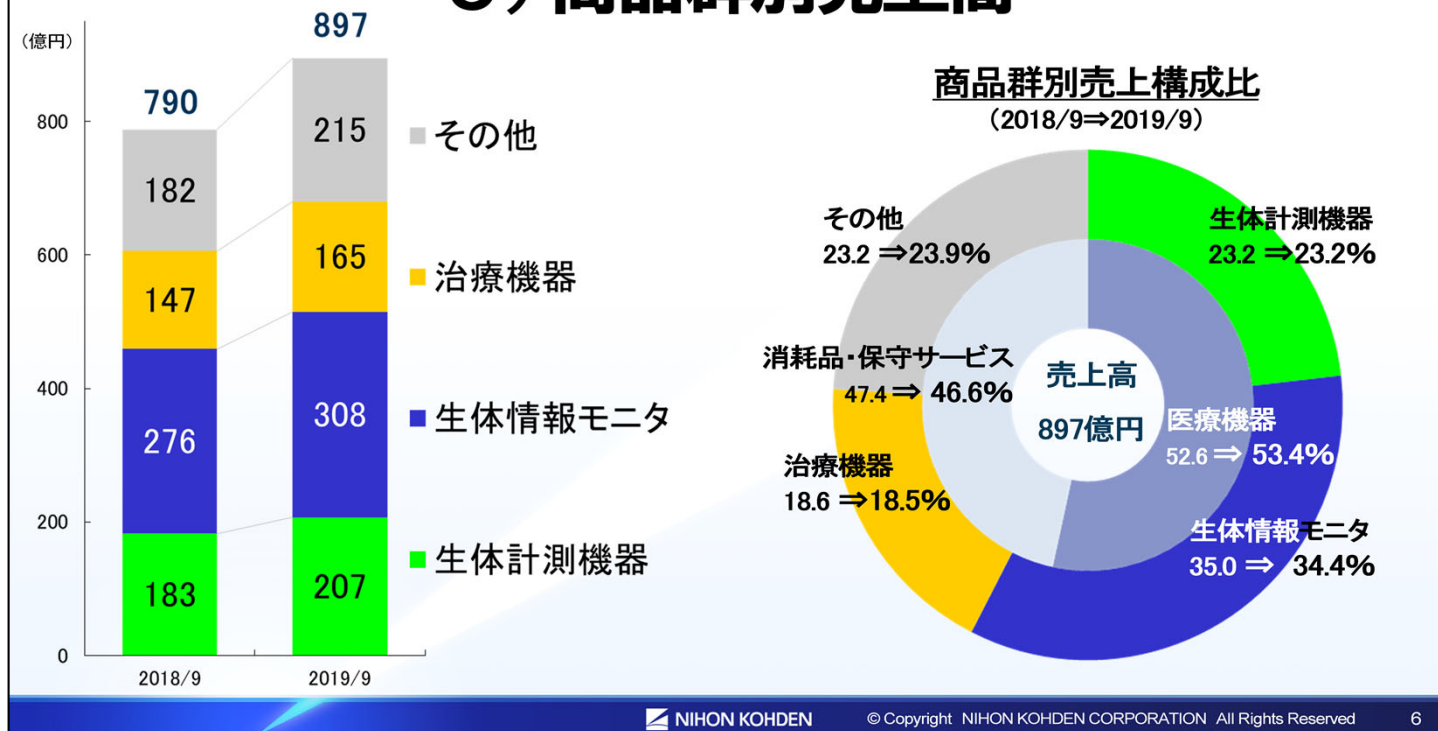
- 国内売上高は96億円増の674億円となりました。
- 消費税率引上げ前の駆け込み需要もあり、全ての市場で二桁成長となりました。下期から上期への商談の前倒しは、40億円から50億円程度だったと見ています。
- 大学、官公立病院市場では、新築移転に伴う大口商談の受注も売上に寄与したほか、私立病院市場では、中小病院向けの販売強化策が奏功し、新製品のベッドサイドモニタも寄与しました。
- 診療所市場は、新製品の検体検査装置に加え、新規開業支援でのソリューション提案が売上に寄与しています。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、11億円増の222億円となりました。
- 米州は8億円増の112億円、現地通貨ベースでは9%増加しました。米国が計画どおり好調だったほか、中南米も、メキシコ、コロンビアを中心に好調に推移しました。
- 欧州は2億円増の37億円、現地通貨ベースでは12%増加しました。ドイツ、フランスが好調に推移したほか、トルコでの売上が回復しました。
- アジア州は4億円減の62億円、現地通貨ベースでは3%減少しました。中近東、インドは好調でしたが、東南アジア、韓国が低調に推移しました。中国は現地通貨ベースでは堅調に推移しましたが、円ベースでは微減となりました。
- その他地域では、南アフリカ、エジプトなどアフリカでの売上が回復しました。

5) 商品群別売上高



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。
- 国内で機器の売上が好調だったこともあり、消耗品・保守サービスの割合は、46.6%となりました。

5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2018/9)	当第2四半期 累計(2019/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
脳 神 経 系 群	3,448	3,620	5.0	
心 電 計 群	3,281	3,380	3.0	
心臓カテーテル検査装置群	6,902	8,204	18.9	新築移転商談の寄与もあり、心臓カテーテル検査装置が大幅増収。電極カテーテルも好調
その他(診断情報システム等)※	4,719	5,577	18.2	消費税率引上げ前の年度予算執行前倒しにより、診断情報システムの更新商談が増加
生 体 計 測 機 器 合 計	18,351	20,782	13.2	
う ち 国 内 売 上 高	14,387	16,627	15.6	
う ち 海 外 売 上 高	3,964	4,155	4.8	心電計群は前年同期を下回るも、脳神経系群は堅調に推移

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で、13.2%増の207億円となりました。
- 国内は、15.6%増の166億円となりました。全ての商品群で好調に推移しましたが、特に、心臓カテーテル検査装置は新築移転商談の寄与もあり大きく増加し、電極カテーテルも好調に推移しました。診断情報システムも、年度予算執行の前倒しにより、更新商談が増加しました。
- 海外は、4.8%増の41億円となりました。心電計群はアジア州が低調で前期を下回ったものの、脳神経系群は米国がけん引し堅調に推移しました。

5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2018/9)	当第2四半期 累計(2019/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
生体情報モニタ合計	27,667	30,855	11.5	
うち国内売上高	16,718	19,984	19.5	新築移転商談の受注や新製品効果で ベッドサイドモニタが好調。臨床情報 システムの更新商談も増加
うち海外売上高	10,948	10,870	△ 0.7	欧州は好調に推移するも、米州は前年 同期並み、アジア州が前年同期を下回る



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で11.5%増の308億円となりました。
- 国内は、19.5%増の199億円となりました。新築移転商談の受注や新製品効果で、ベッドサイドモニタが好調に推移しました。臨床情報システムの更新商談も増加しました。
- 海外は、0.7%減の108億円となりました。欧州は好調に推移したものの、アジア州は東南アジアが低調だったことから、前期を下回りました。米州では、米国が一時的な出荷遅れにより前期並みにとどまりましたが、現在は解消しています。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2018/9)	当第2四半期 累計(2019/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
医科向け除細動器	2,453	2,879	17.4	【国内】病院、消防での更新商談受注 【海外】欧州、アフリカで好調に推移
A E D	7,031	7,479	6.4	【国内】新製品効果により販売台数増加 【海外】全ての地域で増収
ペースメーカー・ICD	1,558	1,625	4.3	
人工呼吸器	993	1,603	61.4	【国内】新築移転商談の受注もありハミルトン社製が好調。自社製新製品NKV-330も寄与
その他	2,704	2,970	9.8	
治療機器合計	14,741	16,558	12.3	
うち国内売上高	10,528	11,922	13.2	
うち海外売上高	4,213	4,635	10.0	
(参考) AED販売台数	44,200台	45,000台	1.8	
うち国内販売台数	24,700台	26,200台	6.1	

 NEW!	 NEW!			 NEW!	 NEW!
除細動器 EMS-1052	AED AED-3150	心臓ペースメーカー Zenex MRI	人工呼吸器 HAMILTON-C1	人工呼吸器 NKV-330	人工呼吸器 NKV-550

- 「治療機器」は、全体で12.3%増の165億円となりました。国内は13.2%増の119億円、海外は10%増の46億円となりました。
- 医科向け除細動器は、国内は更新商談を受注、海外は欧州、アフリカが好調に推移したことから、17.4%増の28億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で45,000台となり、売上は6.4%増の74億円となりました。国内は新製品効果により販売台数が増加し、海外は全ての地域で増収となりました。
- 人工呼吸器は、新築移転商談の受注もありハミルトン社製が好調に推移したほか、自社の新製品も寄与し、61.4%増の16億円となりました。

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2018/9)	当第2四半期 累計(2019/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
検体検査装置	4,234	4,884	15.3	
画像診断装置、 研究用機器他※	14,055	16,655	18.5	
その他合計	18,290	21,539	17.8	
うち国内売上高	16,223	18,911	16.6	
うち海外売上高	2,066	2,628	27.2	

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

検体検査装置が診療所市場で好調に推移。
医療機器の設置工事、現地仕入品も前年
同期を上回る

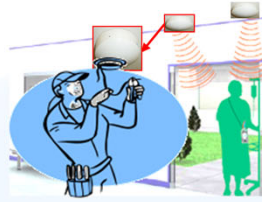
血球計数器が中南米、中近東、アフリカで
大幅に伸長。米国における医療機器設置
サービスの繰延処理の変更も影響



全自動血球計数器
MEK-9100



全自動血球計数・
免疫反応測定装置
MEK-1303



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で17.8%増の215億円となりました。
- 国内は、16.6%増の189億円となりました。検体検査装置が診療所市場で好調に推移したほか、医療機器の設置工事や現地仕入品も前期を上回りました。
- 海外は、27.2%増の26億円となりました。血球計数器が中南米、中近東、アフリカで大きく伸びました。米国における医療機器設置サービスの繰延処理の変更も影響しました。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2019/3	当第2四半期末 2019/9	増減額		前期末 2019/3	当第2四半期末 2019/9	増減額
流動資産	132,211	119,780	△ 12,431	流動負債	48,346	34,618	△ 13,727
たな卸資産	28,599	29,540	941	有利子負債	406	373	△ 33
有形固定資産	19,945	19,925	△ 20	固定負債	5,282	5,118	△ 164
無形固定資産	4,563	4,251	△ 311	純資産	116,087	117,818	1,730
投資その他資産	12,997	13,599	602				
資産合計	169,717	157,556	△ 12,160	負債・純資産合計	169,717	157,556	△ 12,160
たな卸資産回転月数	3.7ヵ月	3.6ヵ月		自己資本比率	68.4%	74.8%	

- 総資産は121億円減少し、1,575億円となっています。

7) 設備投資と研究開発費

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計(2018/9)	当第2四半期 累計(2019/9)	2019/3 前期実績	2020/3予想	
				期初	11月5日修正
設備投資額	1,375	1,609	3,049	4,700	4,600
減価償却費	1,630	1,695	3,542	3,900	3,800
研究開発費	3,741	3,162	7,243	7,600	7,200

【設備投資の上期実績】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、東日本物流センタ設備

【2020/3期設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、ドバイ試薬工場(2億円)、東日本物流センタ(4億円) → 企画賃貸型のため、投資は移動ラックなど物流設備のみ

- 設備投資、減価償却費ともに16億円となりました。研究開発費は下期への期ずれもあり31億円となりました。
- 通期につきましては、上期の進捗状況をふまえ、設備投資は46億円、減価償却費は38億円、研究開発費は72億円に変更しました。ドバイの試薬工場、東日本物流センタにつきましては、予定どおりの進捗です。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境

国内

2025年医療・介護の将来像

- ・医療の機能分化・強化と連携
- ・地域包括ケアシステムの推進

・2018年度末、各都道府県は地域医療構想調整会議で個別の病院名や転換病床数等の具体的対応方針を策定
・地域医療介護総合確保基金 2019年度 1,034億円(医療)

2019年9月 424の公立・公的病院名公表、再編検討を促す

2019年10月 消費税率引上げに伴う診療報酬改定
診療報酬本体改定率+0.41%

- ・病院は、地域医療構想に沿って病床再編を具体化
- ・消費税率引上げに伴う駆け込み需要・反動減の影響

海外

欧米諸国

- ・医療の質と効率性の向上
- ・米国IDN※1の拡大、サイバーセキュリティ要求増
- ・欧州GPO※2など集中購買の広がり

新興国

- ・一部地域で景気の先行き、政策動向に不透明感、現地通貨下落の影響
- ・経済発展に伴う医療インフラ整備

医療機器の需要は底堅く推移

※1 IDN: Integrated Delivery Network 総合医療ネットワーク ※2 GPO: Group Purchasing Organization グループ購買組織

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

14

- 国内では、公的病院を中心に、病院の再編統合の検討が加速すると考えています。また、下期は駆け込み需要の反動減の影響を注視しています。
- 海外については、米国市場ではIDN拡大の動きが続いているほか、サイバーセキュリティへの要求が高まっています。新興国市場では、一部地域での景気や政策動向の不透明感はあるものの、医療インフラの整備が進んでおり、海外全体の医療機器の需要は、総じて底堅く推移すると考えています。

2) 下期の取り組み

TRANSFORM 2020 高収益体質への変革

1 高い顧客価値の創造 顧客価値の高い自社製品の投入

2019/3期～2020/3期の新製品(許認可申請の審査期間等によって、各国での実際の発売時期は異なります)

臨床検査機器事業	生体情報モニタリング事業	治療機器事業
 脳波計 EEG-1290  心電計 ECG-3150  超音波画像診断装置 TUP-C035J	 ベッドサイドモニタ PVM-4000  スポットチェックモニタ SVM-7200  医用テレメータ WEP-1400  中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1500/1700シリーズ 米国市場投入 製品サイバーセキュリティ対策の強化 2020年度上期 米FDA再申請を目指す	AED   一般家庭向けカラー画面付 AED-3101 AED-3150  除細動器 EMS-1052 人工呼吸器   NKV-330 NKV-550

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

15

- 以上のような経営環境の下、下期は、TRANSFORM 2020で掲げた高収益体質への変革に引き続き注力します。
- 高い顧客価値の創造に向けては、前期から今期にかけて、顧客価値の高い製品を数多く投入しました。
- 今期新たに投入したスポットチェックモニタや自社製人工呼吸器をはじめとする新製品の早期立ち上げに注力します。
- 中位機種ベッドサイドモニタの米国市場投入については、2020年度上期のFDA再申請を目指します。

2) 下期の取り組み

TRANSFORM 2020 高収益体質への変革

2 組織的な生産性の向上

生産・物流

東日本物流センタ

2019年11月本格稼働



グループ全体

・ ERPのグローバル展開

－ 今期は、メキシコ、インドに導入



・ 本社-国内支社支店間の業務処理フローの電子化

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

16

- 組織的な生産性の向上に向けた取り組みをご説明します。
- 生産・物流面では、東日本物流センタが11月から本格稼働しました。機器と消耗品の同梱出荷により、物流コストの削減を目指します。
- グループ全体では、ICTを活用した業務プロセス改革の一環として、ERPのグローバル展開を進めています。今期は、メキシコとインドに導入する予定です。国内においては、本社-支社支店間の業務処理フローの電子化を進め、業務のスリム化を図ります。

3) 通期の業績見通し

	前期実績 2019/3	2020/3 予想			増減率 (%)	(単位:百万円)
		期初	6月17日修正	11月5日修正		
売上高	178,799	186,000	186,000	186,000	4.0	
国内売上高	130,223	133,000	133,000	134,500	3.3	対期初計画: +15億円
海外売上高	48,575	53,000	53,000	51,500	6.0	対期初計画: △15億円 対前期増減率(為替影響除く): +9%
売上総利益 (売上総利益率)	85,987 48.1%	90,200 48.5%	90,200 48.5%	89,800 48.3%	4.4	
営業利益 (営業利益率)	15,044 8.4%	16,000 8.6%	16,000 8.6%	16,000 8.6%	6.4	
経常利益	15,867	16,000	16,000	16,000	0.8	
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,191	11,000	10,700	10,700	△ 4.4	
海外売上高比率	27.2%	28.5%	28.5%	27.7%		
平均レート						
米 ド ル	110.8円	108円	108円	108.5円		(下期) 108円
ユ ー ロ	128.5円	125円	125円	121円		120円

【地域別海外売上高】

	前期実績 2019/3	2020/3 予想		増減率 (%)
		期初	11月5日修正	
米 州	23,508	25,500	24,600	4.6
欧 州	8,167	8,900	8,600	5.3
アジア州	15,096	16,000	15,600	3.3
そ の 他	1,802	2,600	2,700	49.8
海 外 計	48,575	53,000	51,500	6.0

- 通期の業績見通しについては、連結売上高は4%増の1,860億円、国内売上高は3.3%増の1,345億円、海外売上高は6%増の515億円、現地通貨ベースでは9%の増加を見込んでいます。
- 国内売上高は、上期が計画を上回って推移しており、下期は駆け込み需要の反動減が想定されるものの、期初予想から15億円増加する見通しです。
- 海外売上高は、全ての州で期初計画を下回ると想定しており、15億円減少する見通しです。米国のFDA申請取り下げの影響は、10億円程度と見ています。欧州は、円高による目減り分を反映しました。アジア州は、下期の売上回復を見込むものの、上期の減少分を補うまでには至らない見通しです。
- 営業利益については、上期は計画を上回って推移しましたが、下期は国内の反動減が想定されること、販管費の期ずれもあることから、期初の計画どおり6.4%増の160億円を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 下期の為替の前提につきましては、ドルは108円、ユーロは120円を想定しています。

4) 通期見通しの要因分析



- 国内売上高は、病院・診療所向けは38億円、AEDは5億円増加する見込みです。AEDの販売台数は、50,300台を見込んでいます。
- 海外売上高は、47億円の実質増、為替は17億円のマイナス影響を見込んでいます。
- 営業利益につきましては、マイナス要因としては、減価償却費・研究開発費が2億円増加するほか、東日本物流センタの設立や国内事業所の移転・再編、海外の販売・サービス体制の強化などにより、人件費・経費が34億円増加する見込みです。為替は5億円のマイナス影響、増収と粗利率改善によるプラス効果は51億円と見込んでいます。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	前期実績 2019/3	2020/3 予想			増減率 (%)
		期初	11月5日修正	構成比 (%)	
生体計測機器	40,773	41,700	41,850	22.5	2.6
生体情報モニタ	61,978	66,150	64,500	34.7	4.1
治療機器	33,149	34,250	34,750	18.7	4.8
その他	42,898	43,900	44,900	24.1	4.7
売上高合計	178,799	186,000	186,000	100.0	4.0

(ご参考)

消耗品・保守サービス	79,226	83,000	83,100	44.7	4.9
------------	--------	--------	--------	------	-----

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米 ド ル	3.1億円	0.9億円
ユ ー ロ	0.5億円	0.2億円

- 商品群別の売上高見通しについては、ご覧のとおりです。
- 上期好調だった除細動器や人工呼吸器、血球計数器を反映するとともに、米州、アジア州の見通しをふまえ、生体情報モニタを見直しました。

3

当社の経営戦略

中期経営計画 TRANSFORM 2020

高収益体質への変革

基本方針

- 1 高い顧客価値の創造
- 2 組織的な生産性の向上

6つの重要課題

地域別事業
展開の強化

コア事業の
さらなる成長

新規事業の
創造

技術開発力の強化

世界トップクオリティの追求

企業体質の強化

人財育成・組織風土改革

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 3カ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」では、2つの基本方針の下、高収益体質への変革を目指しています。
- 本日は、6つの重要課題のうち、「地域別事業展開の強化」「コア事業のさらなる成長」について取り組みをご説明します。

地域別事業展開の強化

日本

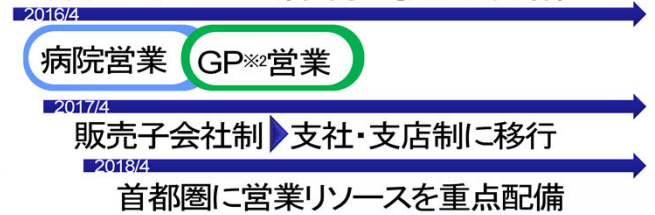
高齢社会の医療ニーズに応える新たな成長基盤の構築

✓ 新製品・サービスの投入による 市場別事業展開の強化



※1 日本ではコンティニアス・モード限定

✓ 販売・サービス体制の強化・再編



「顧客価値提案」の推進

医療安全 診療実績 業務効率 につながる
提案営業力の強化、サービスの拡充



※2 GP: General Practitioner 総合診療医

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

22

- 「地域別事業展開の強化」については、国内では、高齢社会の医療ニーズに対応するために、急性期から、回復期、慢性期、そして在宅医療までケアサイクル全体を包括する商品ラインアップを拡充し、市場別事業展開を強化します。
- 今期は新たに、ベッドサイドモニタ、スポットチェックモニタ、医用テレメータ、除細動器、当社初となる人工呼吸器などを相次いで投入しました。
- 販売・サービス体制の再編だけではなく、「顧客価値提案」を推進しており、「医療安全」「診療実績」「業務効率」を訴求する提案営業力を強化しています。また、リモート監視システムなどの付加価値サービス商品を拡充します。

✓ 医療の質と効率の向上に貢献するソリューションの提供

✓ スポットチェックモニタの投入により、院内の全ての患者データの一元管理が可能に

生体情報モニタ

生体情報モニタ
市場シェア目標12%



治療機器



脳神経系群

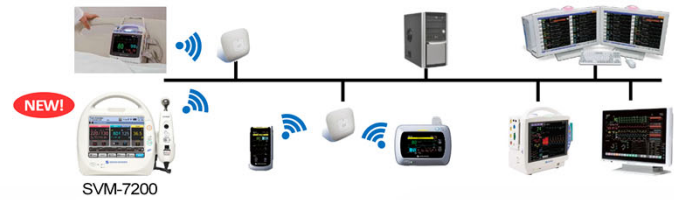


人工呼吸器市場への参入

2019年度下期
米国での臨床
評価を開始

2020年度
日本光電アメリカ
が販売予定

NKV-550



中位機種ベッドサイドモニタの投入

米FDA申請を取り下げ

2018年5月 FDAに510(k)申請
2018年12月～ 米連邦政府閉鎖で
一時中断
2019年3月 FDAとの協議が再開
2019年9月 申請を取り下げ

製品サイバー
セキュリティを強化

・機器の追加試験等を実施
・市販後マネジメントの強化

2020年度上期
再申請を
目指す

【ご参考】 FDAサイバーセキュリティ・ガイダンス

2014年10月Final Guidance: Content of Premarket Submissions for Management of Cybersecurity in Medical Devices

2016年12月Final Guidance: Postmarket Management of Cybersecurity in Medical Devices

2018年10月Draft Guidance: Content of Premarket Submissions for Management of Cybersecurity in Medical Devices

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

23

- アメリカ市場においては、引き続き3つの事業に注力します。
- 今期は、治療機器事業の拡大を目指し、人工呼吸器市場へ参入する準備を進めています。日本光電オレンジメッドで開発した人工呼吸器の臨床評価を下期から開始し、2020年度の発売を目指します。
- 主力の生体情報モニタ事業では、新たにスポットチェックモニタを投入する予定です。製品ラインナップを拡充することにより、院内の全ての患者データの一元管理が可能になります。
- 中位機種ベッドサイドモニタの投入については、昨年10月に公表されたFDAのサイバーセキュリティ・ガイダンスのドラフトに基づく要求事項が、申請時よりも厳しくなったことから一旦申請を取り下げ、2020年度上期の再申請を目指します。サイバーセキュリティ対策をより一層強化することで、競争力の向上を図ります。

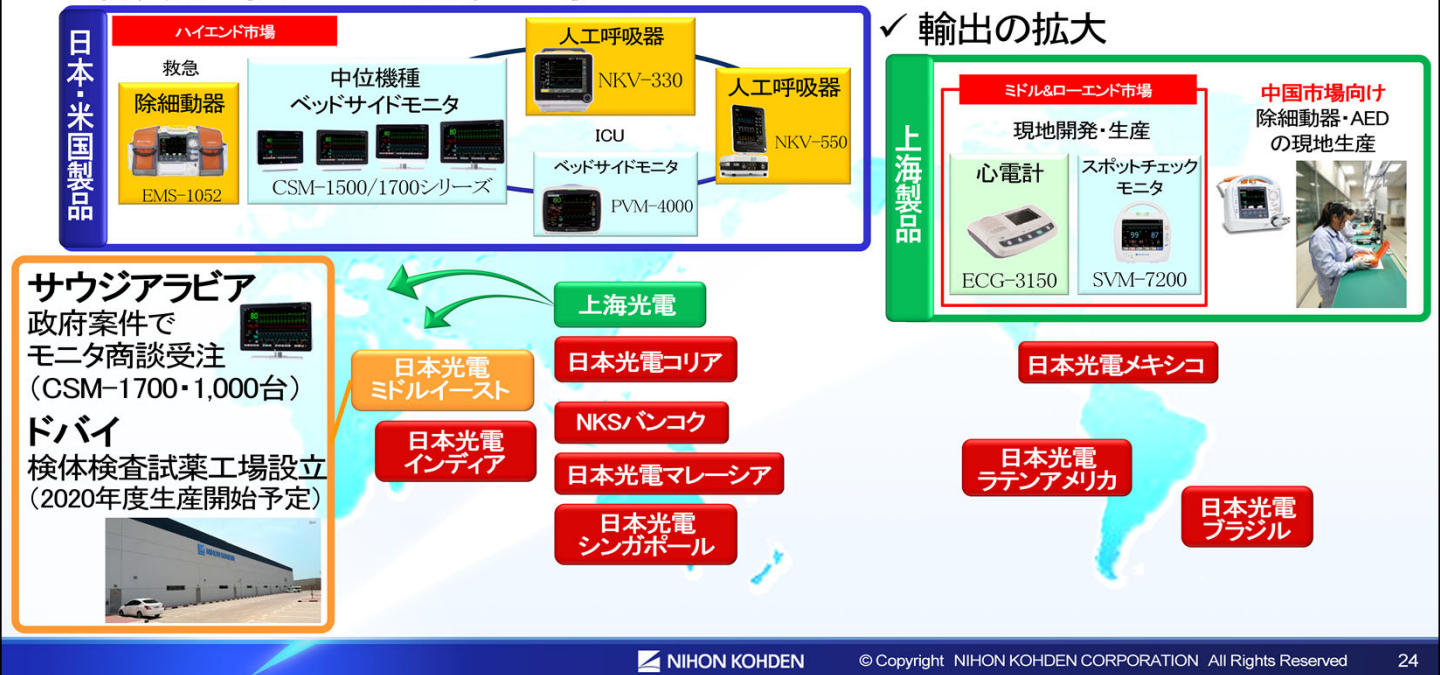
新興国

新興国市場の医療ニーズに応える戦略的事業展開

✓ 新製品の投入による提案力の強化

✓ 上海光電製のラインアップ拡充

✓ 輸出の拡大



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

24

- 新興国市場では、先進国と同様の医療水準が求められるハイエンド市場向けには、付加価値の高い日本・米国の開発・生産品を供給します。今期は、新興国向けベッドサイドモニターに加え、2機種の自社製人工呼吸器を新たに投入しました。除細動器も下期の投入を予定しています。
- ミドル・ローエンド市場向けには、コスト競争力の高い上海の開発・生産品を供給します。今期は、心電計やスポットチェックモニターを投入しました。中国市場向けには、新たに除細動器とAEDの現地生産を開始しました。中近東では、サウジアラビア政府からモニターの大口商談を受注し、同国でのプレゼンスが高まっています。ドバイの試薬工場では、2020年度の生産開始に向けて準備が進んでいます。

コア事業のさらなる成長



NIHON KOHDEN

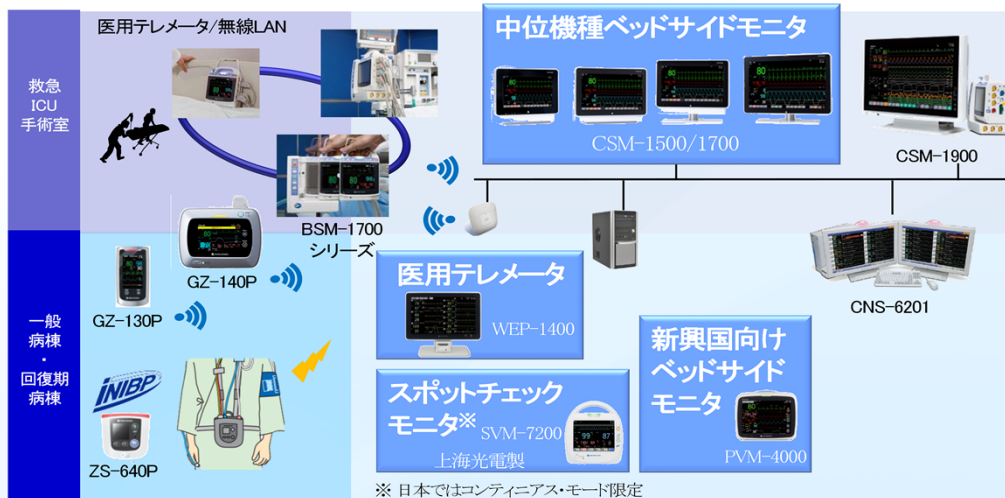
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

25

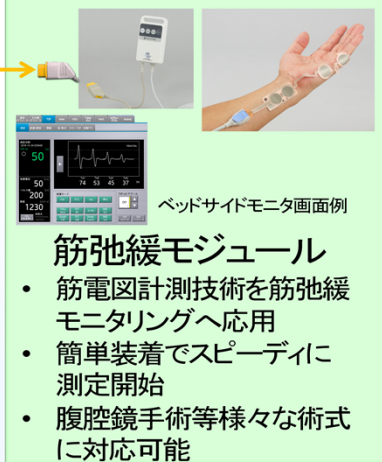
- 「コア事業のさらなる成長」について、主な取り組みをご説明します。

✓ 医療の質と効率、患者安全の向上に貢献するモニタリングソリューションの提供

製品ラインアップの拡充・ネットワーク対応



コア技術の融合による 高付加価値化



- 生体情報モニタリング事業では、製品ラインアップを拡充するとともに、大規模ネットワークへの対応を強化し、競争力の向上を図ります。
- 今期は、新製品として医用テレメータ、スポットチェックモニタ、新興国向けベッドサイドモニタを投入しました。
- また、新たなオプションとして、手術前後に筋肉の弛緩状態をモニタリングするための筋弛緩モジュールを発売しました。当社のコア技術である筋電図計測技術を応用し、簡単な装着でスピーディに測定が開始できるだけでなく、様々な手術に対応することが可能です。

救急蘇生分野における トータルソリューションの提供

【救急車】



救急車搭載除細動器
EMS-1052

- ・ クラス最小・最軽量を実現し、機動性を追求
- ・ 操作性、モニタリング機能を向上
- ・ 独自技術による高付加価値化

synECG¹⁸
Synthesized ECG
導出18誘導心電図※1

iNIBP

換気中のETCO₂
管理を音でサポート

人工呼吸器事業の早期立ち上げ

1. NPPV※2人工呼吸器の投入

総合技術開発センターで開発

ターゲットは一般病棟

2019年度Q1発売
(日本、欧州、新興国)

《診療実績》患者さんのQOL向上

- ・ 日本人の骨格形状にフィットするようにマスクを独自にデザイン
- ・ フィッティング性の向上でリークが低減、皮膚トラブルのリスクも軽減、患者さんの快適性も向上



欧米人

日本人

《医療安全》安全な呼吸管理を提供

- ・ NPPV中もSpO₂とCO₂のモニタリングが可能



NKV-330

※1 12誘導心電図の波形をもとに、右側誘導、背部誘導の波形を演算により導出する技術

※2 NPPV (noninvasive positive pressure ventilation) : 非侵襲的陽圧換気。気管内挿管や気管切開を行わない人工呼吸管理

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 治療機器事業では、新たに、救急車搭載除細動器を国内で発売しました。クラス最小・最軽量を実現し、機動性を追求するとともに、操作性の向上を図りました。当社独自の血圧測定方式であるiNIBPや導出18誘導心電図などの技術を搭載し、モニタリング機能を強化しました。今後、欧州、新興国での発売を予定しています。
- 当社初の自社製人工呼吸器であるNPPV人工呼吸器は、挿管をせずにマスクを使って換気を行う一般病棟をターゲットとした人工呼吸器です。独自に開発した患者さんに優しく、空気漏れの少ないマスクも大変高い評価を得ています。国内に続き、欧州、新興国でも販売活動を開始しました。

人工呼吸器事業の早期立ち上げ

2. 日本光電オレンジメッド製人工呼吸器の投入

米国で開発・生産

ターゲットはICU

2019年度Q2
新興国発売2019年度Q3欧州発売、
米国での臨床評価開始を予定

《診療実績》

患者さんの肺保護

- 人工呼吸管理の第一人者のドクターからアドバイス
- 人工呼吸器関連肺傷害の予防を目的としたアプリケーションを提供

Gentle Lung™



《医療安全》

安全な呼吸管理を提供

- 日本光電の独自技術を搭載し、SpO₂とCO₂をモニタリング



感染リスクを低減

- 病室外からの操作が可能

Protective Control™



NKV-550



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

- 2015年に米国に設立した日本光電オレンジメッド製の人工呼吸器を新たに発売しました。人工呼吸管理の第一人者の方々からのアドバイスを取り入れたICU向けの人工呼吸器です。
- 重症な患者さんの肺を保護するためのアプリケーションや、当社独自技術によるSpO₂とCO₂のモニタリング機能を搭載し、より安全な呼吸管理の提供を目指します。また、感染リスクを低減するため、病室の外に設置したディスプレイから操作する機能も実現しました。
- すでに、新興国と欧州で発売しましたが、市場からの評価も高く、順調に立ち上がり始めています。米国では下期から臨床評価を行い、2020年度に発売する予定です。

利益配分の基本方針

成長投資

株主還元

将来の企業成長に必要な投資を継続

研究開発

設備投資

M&A、提携

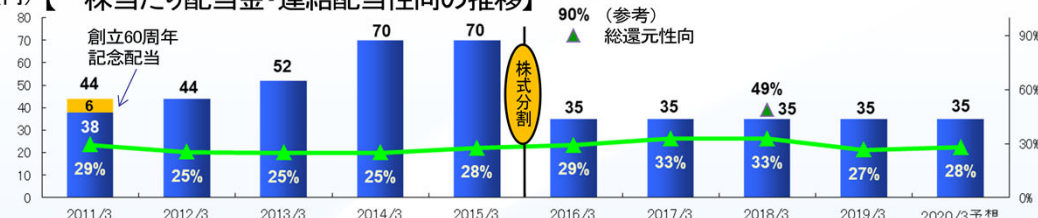
人財育成

✓ 長期にわたって安定的な配当を継続

✓ **連結配当性向30%以上を目標**

✓ 配当を重視し、自己株式の取得は機動的に検討

(円) 【一株当たり配当金・連結配当性向の推移】



注) 2015年4月1日を効力発生日として株式1株につき2株の株式分割を実施
2015年3月期までの数値は、株式分割前の実際の配当金の額を記載

自己株式の取得・消却状況

2018/3/2
50万株を取得



2018/5/21
100万株を消却

自己株式保有: 357万株
(持株比率: 4.0%)

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としています。配当性向は30%以上を目標としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、自己株式の取得につきましては、機動的に検討します。
- 当期の年間配当金は35円、配当性向は28%の予想です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】Tel.03-5996-8003